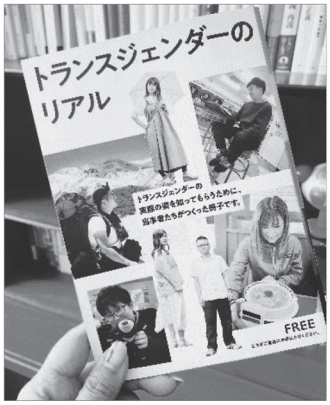
人権文化を拓く

292

冊子『トランスジェンダーのリアル』制作に寄せる願い

土肥　いつき



２０２１年９月に『トランスジェンダーのリアル』という冊子がつくられ、全国各地に配布されました。この冊子は、タイトルの通り、現実社会を生きるトランスジェンダーの生身の姿を紹介するものです。中身を見ると、５人の当事者の手記や写真、職場・治療・学校をテーマとした当事者によるコメントやコラム、トイレ利用についての座談会、家族の手記、そしてトランスジェンダーを友人に持つ人のひとことコメントなどが掲載されています。

この冊子が出された背景にあるのは、昨今、インターネット上において広がっているトランスジェンダーへのヘイトスピーチの存在です。実は、トランスジェンダー、特にトランス女性へのヘイトの歴史は新しいものではありません。しかしながら、特に日本においては「性同一性障害」に対しては比較的好意的な言説が、どちらかと言えば多かったように思います。そのような状況が一変したのは２０１８年のことです。この年、お茶の水女子大学がトランス女性に門戸を開くという報道がされました。それに対して、女性専用スペースにトランス女性が入ることへの懸念や反発が起こりました。その内容の代表的なものは、「トランス女性を受け入れれば、男性器のついた人間が女性専用スペースに入れるようになり、性暴力が増える」といったものです。こうしたことを言う人々は、トランス女性は「男の身体を持つ人」であり「性犯罪目的の男性と見分けがつかない」とします。つまり「性犯罪者予備軍」としているのです。このような言説に呼応するように、例えばある有名「男性」作家によって「よーし、今から受験勉強に挑戦して、２０２０年にお茶の水女子大学に入学をめざすぞ！」といったツイートがされるなど※1、そうした論調に油を注ぐような言論がネット上にあふれかえるような状況になりました。また、トランス女性個人のツイッターアカウントへの攻撃もなされるようになり、２年前には「ツイッターのせいで高校からの友達が死んだ」という匿名日記への投稿がネット上を駆けめぐる事態になりました※2。さらに、最近ではネット上だけではなく、例えばＬＧＢＴ理解増進法をめぐるある政党の勉強会において「（男性である）自分が今日から女性だと言えば、女湯に入れるようになる」といった講演がなされるなど※3、トランスジェンダ

土肥いつきさんのプロフィール

京都府立高校教員、トランスジェンダー生徒交流会世話人、全国在日外国人教育研究協議会事務局次長。セクシュアルマイノリティ教職員ネットワーク副代表、京都府立高等学校人権教育研究会事務局。仲間が繋がる「玖伊屋」のスタッフとして、2ヶ月に1回京都駅南側で夜通しの交流会を行っている。

ーへのヘイトスピーチはネットの世界から現実の世界へとその場を移す状態になっています。

では、現実にこの社会でトランスジェンダーたちはどのように生きているのでしょうか。例えばトイレひとつをとっても、それぞれがそれぞれの性別移行の状況に応じて、「ふさわしい」トイレを使っています。なぜなら「ふさわしくない」トイレを使うことによる不利益がどのようなことになるかということを一番よく知っているのが、他ならないトランスジェンダー当事者自身だからです。そして、そのような生活をしているからこそ、ほとんどのトランスジェンダーは日常生活場面では可視化されません。と同時に、可視化されないからこそ、実際のトランスジェンダーの生活を知る人はほとんどおらず、憶測で物事が語られるようになります。

このような状況のもと、生身のトランスジェンダーの姿を知ってほしいという思いで『トランスジェンダーのリアル』がつくられました。

5人の当事者による手記は、いまある「普通の生活」を手に入れるまでの葛藤や逡巡が描かれています。だからこそ、いまある「普通の生活」をかけがえないものと考えておられることもまた伝わってきます。そして、トランスジェンダーもシスジェンダーと同様、ひとくくりにできるのではなく、一人ひとりが異なる存在であることも教えてくれます。

学校での経験について書かれたコメントは、人権教育にかかわる私たちにとってとりわけ大切なページと言えるでしょう。「一緒に闘ってくれた」教員の存在が「自分のあたりまえを叶えてくれた」経験を持つスカイという人は、現在教員をめざしておられるとのことです。また、職場での経験について書かれたコメントも、学校でのとりくみに応用が可能です。トランスジェンダーが生きやすい学校・社会は差別を許さない学校・社会でもあり、そのような学校・社会は、実はシスジェンダーにとっても生きやすい学校・社会であることがわかります。トランスジェンダーの子どもを持つ保護者の手記もまた、トランスジェンダーを包摂する学校のあり方に、大きなヒントを与えてくれます。

トイレについての座談会は、トイレのことにとどまらず、トランスジェンダーがこの社会をどのようにサバイブしてきたのかを教えてくれます。と同時に、人びとを性別でわけているこの社会のありようを明らかにします。

トランスジェンダーに対するヘイトに抗するためというだけでなく、トランスジェンダーの日常の姿や思いに触れていただくためにも、ぜひこの冊子を読んでいただければと思います。なお、この冊子は公共施設や教育機関に無料配布することを目的としているため、個人単位での申し込みには対応していないとのことです。個人的に読みたいと思われる方は、すでに全国の男女行動参画センターなどに3万部以上配布されているので、問いあわせてみるのもひとつの方法です。さらに確実な方法は、みなさんの研究会などで配布されることです。その場合、https://tgbooklet.wordpress.com から申し込みできます。また、今後も増刷・配布を続けるので、寄付も受けつけておられます。ぜひとも協力をしていただきたいと思います。

（どひ　いつき／京都府立高校教員）

※1　https://lite-ra.com/2018/07/post-4125.html　2022年1月4日取得
※2　https://anond.hatelabo.jp/20190109004202　2022年1月4日取得
※3　https://mainichi.jp/articles/20210509/k00/00m/010/077000c　2022年1月4日取得